

加工～プラスチック成形： 概要

職務遂行のために必要な知識

（概要）

プラスチック成形の仕事は、成形機にプラスチック材料を投入し、加熱溶融したものを金型などで形を与えて冷却し、固定化し、プラスチック製品にする作業のこと。製造する製品によって圧縮成形機、射出成形機、ブロー成形機など成形機の種類は異なるが、製造原理はほとんど同じである。

仕事の内容

プラスチック成形の仕事は、成形条件や工程が完全に設定されると全自動で運転されるため、作業者の仕事は機械の監視、製品の整理、材料の補給といった軽作業が中心である。

プラスチック成形の種類としては、圧縮、射出、押出、ブロー、真空、発砲、インフレーションなどの成形法があり、それぞれ異なった成形技能が求められる。

機械によって作業内容は異なるものの、一般的な作業手順は次のとおりである。まず、成形機に金型を取り付け、プラスチック材料を機械に投入し、指示された成形条件を機械に入力し、機械の試運転を行う。その結果を踏まえて成形条件を調整した後は、機械を連続自動運転させる。運転中は、成形条件が変化して不良品が発生しないかどうかを監視し、必要に応じて機械を調整する。

（求められる経験・能力）

- （１） 入職に際して、公的資格は特に必要とされない。中学や高校を卒業してすぐに入職する者が中心である。機械作業が中心で力仕事をするわけではないため、男女を問わず筋力のあまりない者でも就職に大きく不利になることはない。
- （２） 技能検定（プラスチック成形）の資格（特級、１級、２級）を取得することで技能が社内で認められて地位が向上することが多い。また、転職時にも、資格保有者は有利である。
- （３） プラスチック成形の仕事で重要なことは、製品の成型条件を成型機に設定する作業である。そのためには、成形機やプラスチック材料、金型の構造に関する知識が必要である。

（関連する資格・検定等）

- 技能検定制度 （職種：プラスチック成形） 特級 １級 圧縮成形作業、射出成形作業、インフレーション成形作業、ブロー成形作業 ２級 （１級に同じ）